

数々の伝説や独自の風習から、奈良田集落は「秘境」とも称されてきた。独特な民謡と踊りは、結婚式などのハレの場、集落での集まりとなれば、自然と演奏が始まり、その場にいる者は踊り出す、そういうものであった。各家庭にも、手作りの三味線があった。しかし近代から続く過疎高齢化の影響で、風物詩だった盆踊りも、年中行事としては途絶えて40年近くにもなる。

地元で立ち上がった「白樺会」の活動によって、民謡と踊りが保存・継承されてきている。1968年10月には、明治100年記念伊勢神宮奉納民謡全国大会に関東県代表として出場した。さらに近年では、奈良田集落を出身とする町外在住者との協力も進んだばかりでなく、Uターン、Iターンの移住家族も「白樺会」に加わり、悩ましかった地元での三味線演奏をおこなう後継者も育ちつつある。この協力関係を背景とした盛り上がりのもと、集落の若手が中心となって、「奈良田で盆踊りを復活させよう」と動き出した。

平成30年8月13日

開会 (14:00)

第一部 シンポジウム (14:15 ~ 16:00)

○話題提供 「上流文化と奈良田」

上原佑貴 (日本上流文化圏研究所)

○座談会 「伝統的で固有性の高い民謡と踊りが、地域で継承されていく意味と価値」

パネリスト：深沢守 (白樺会前会長)

井上真 (早稲田大学教授、環境社会学)

山川志典 (筑波大学大学院博士後期課程、世界遺産学)

第二部 踊り講習 (16:30 ~ 17:30)

第三部 盆の夕踊り (18:30 ~)

主催：『奈良田盆踊り復活祭』実行委員会

協力：奈良田区、白樺会、奈良田アルプス会

古民家カフェ『鍵屋』、日本上流文化圏研究所

奈良田の民謡は独特づら。さあ、踊らずよー！